

新たな技術や手法創造を 川崎医療短大で入学式



新入生代表として宣誓する山内さん（中央）

川崎医療短大（倉敷市松島）の入学式が3日、同大で開かれ、看護科と医療介護福祉科の計134人が新たな一歩を踏み出した。新型コロナウイルス

対策として、会場の講義室では新入生が席を空けて座り、保護者らにはライブ配信した。4月に就任した秋山祐治学長が「コロナ禍や災害の多発など社会

構造を揺るがす環境変化への対応が求められる。課題や将来を想像し、新たな技術や手法を創造できる医療福祉人を目指してほしい」と式辞。代表で看護科山内理恵子さん（18）が「人間性豊かな医療福祉の専門職を目指します」と宣誓した。

同短大は2022年度から、岡山市の旧川崎医科大付属川崎病院跡地に建設中の新校舎に、一部機能を残して移転する予定で、現在地での入学式は最後になった。医療介護福祉科は21年度から3年制となり病院実習などを導入した。

（山内悠記子）